

平成23年5月20日

第34号

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付録

すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市本城町 113-1
発行人 武松 豊
編集責任者 金子俊彦



親戚の一人が検事畑に在籍した。福岡地検の検事正で着任したが、前職が仙台地検の検事正であった。その夫人が柳川を訪れたとき「おや、柳川弁は仙台のそれに似ていますね」と言った。ところで昨今、東北東海岸側の悲惨な地震の状況が連日報道されているが、ある大手新聞が東北弁について記載していた。やはり、似ているらしいとのこと。しかし、今柳川の人が使っている言葉は、大正生まれの筆者の記憶している柳川弁とは違っている。私の祖母は「昔は、接尾語の「のも」とは言わなかった。必ず、のーもしと言っていた」と。そういえば私もそう記憶している。柳川弁は其の家の社会的地位によって異なる使用方をしていた。「わりがさし」とはよく祖母が使っていたが、今の人には判らるだろうか。「お前がしなさい」と言うことである。他郷に就職していた筆者がたまたま柳川の銀行に来たことがあるが、女性行員の使っていた柳川弁を聞いて懐かしさと柔らかさに涙が出そうになったことがある。

(土竜)